

平成26年度小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会
第2回保全管理委員会 議事概要

平成27年2月23日(月) 16:00~18:10
小笠原村地域福祉センター会議室

1. 傘山、躑躅山ルートにおけるオガサワラノスリのモニタリング結果について
 - ・ 来年度計画しているノスリ調査の実施に当たっては、環境省や民間等のデータも集積し、総合的に解析してはどうか。

2. 小笠原諸島兄島グリーンアノール対応について
 - ・ 兄島では今後も各種の調査や作業が入るため、生態系の保全事業を進めるためにも自然環境に負荷を与えないような作業道の作設を検討してはどうか。
 - ・ 柵の設置に伴う伐採作業は慎重に進められているが、枯損率や萌芽再生率、乾燥化、外来種の侵入状況等について評価していく必要がある。
 - ・ マツバシバやシマカモノハシ等の荒原植生は裸地化した所に広がる重要な植物群落であるため、踏み荒らさないよう作業等者に徹底する必要がある。
 - ・ オガサワラトカゲ等の混獲について、数値を示すだけでなく、兄島の生態系にどのような影響を与えているのか評価すべきではないか。
 - ・ 母島でのアノール対策について、父島では確認されなくなった昆虫の生息状況を考慮し、新夕日ヶ丘以外での対策も検討してもらいたい。

3. 聳島指定ルートについて
(特段意見等はなく、了承された。)

4. 海岸部の利用について
 - ・ 海岸利用で一番危惧されるのは外来種の持ち込みであり、誰が利用するにしてもそのリスクは変わらないため、外来種対策をきちんと実施することを議論する必要がある。
 - ・ 看板を立てることは賛成であるが、どこまで海岸でどこまで森か、という線引きの議論はあまり意味がないのではないか。
 - ・ 調査研究者や作業者が海岸から山間部に出入りすることについて、島民や観光客が保全事業の意義を理解できるような形を考えてはどうか。
 - ・ 海岸利用の実態を調査しながら、引き続き検討していくこととする。

5. 平成26年度事業実施結果について
 - ・ 母島施設について、入札不調になったことを逆に好機ととらえ、ビジターセンター的要素を盛り込むことなども含め、時間をかけて再検討してもらいたい。

- ・ オガサワラオオコウモリの保護について、環境省や東京都などの事業と連携した取り組みができないか。
- ・ 修復事業について、成果が出てきており、その進捗状況が島民にも分かり易いような資料を、環境省や東京都の事業も含め作成してはどうか。また、昨年開催した住民説明会を是非継続してもらいたい。
- ・ 母島における修復事業では、石門などの奥地のみならず、都道沿いなど島民に見える場所での事業実施を検討してもらいたい。
- ・ 父島においてノヤギの駆除が進み、希少植物が回復している一方で、外来植物の繁茂が著しい。兄島等の先例もあり、環境省や東京都も含め計画的な外来種対策を講じるべきではないか。

6. 平成27年度事業予定について

- ・ ガジュマルを修復事業の駆除対象種に追加し、早い段階で対処してもらいたい。

7. 活用案件について

① 母島都道241号（北進線）道路工事等

- ・ それぞれの工事規模やアセス会社が違うせいかもしれないが、報告書のまとめ方や評価の仕方がバラバラで理解しにくい。フォーマットを作成するなど、アセスメントのまとめ方を統一してもらいたい。
- ・ 前回の会議で疑義があった父島都道240号線の補足説明については、複数の委員から、十分な説明がなされたとは言いがたい状況にある、との意見が示された。このため、

ア 都は、本委員会の関係者に対する説明会を、別途、早急に開催する

イ 今回の委員会では、上記の都の説明会において関係者が了解することを条件に、都道240号線の改良工事に係る国有林の貸付を了承する

ウ 万が一、上記の都の説明会においても理解が得られない場合には、今回の委員会会議では了承されなかったものとし、次回の委員会において改めて審議することとなった。

② 外来ネズミ対策等

- ・ 様々な事業における住民への情報提供は、丁寧な説明をしながら進めてもらいたい。